

計画研究 A01 (課題番号: 06208101)

## 環東シナ海の地域間交流史 - 江蘇・浙江・朝鮮 -

研究代表者: 川勝賢亮・九州大学・文学部・教授

- 
1. 研究項目: A02 環東シナ海地域間交流史
  2. 研究課題名: 環東シナ海の地域間交流史 - 江蘇・浙江・朝鮮 - (課題番号: 06208101)
  3. 研究期間: 平成6～9年度(1994～1997)
  4. 交付研究費: 平成7年度 8,000千円  
平成8年度 7,200千円  
平成9年度 6,200千円 合計 30,700千円
  5. 研究組織(氏名: 所属機関・部局・職)  
研究代表者 川勝 賢亮: 九州大学・文学部・教授  
研究分担者 川本 芳昭: 九州大学・文学部・助教授  
同 和田 正広: 九州国際大・法学部・教授  
同 黒木 国泰: 宮崎女子短大・助教授  
同 滝野正二郎: 山口大学・人文学部・助教授(平成6・8・9年度)  
同 則松 章文: 福岡大学・人文学部・助教授(平成6・8・9年度)  
同 城井 隆志: 久留米大学・文学部・助教授(平成6・8・9年度)  
同 小林 聡: 九州大学・文学部・助手(平成6年度)  
同 佐々木 揚: 佐賀大学・教育学部・教授(平成6・7年度)  
同 中村 質: 別府大学・文学部・教授(平成7・8年度)  
同 安藤 保: 九州大学・文学部・教授(平成8・9年度)  
同 佐伯 弘次: 九州大学・文学部・助教授  
同 浜田 耕策: 九州大学・文学部・教授  
同 六反田 豊: 九州大学・文学部・助教授(平成8・9年度)  
同 宮崎 洋一: 九州大学・文学部・助手(平成7～9年度)  
同 宮崎 克則: 九州大学・比文・助手(平成8・9年度)  
同 岩崎 義則: 九州大学・文学部・助手(平成9年度)  
同 大谷 敏夫: 鹿児島大学・名誉教授(平成6～8年度)  
同 虎尾 達哉: 鹿児島大学・法文学部・助教授(平成6・7年度)

同 柳原 敏昭：東北大学・文学部・助教授

## 6. 研究目的と研究計画・方法

平成6年度

### 研究目的

研究の背景 琉球・沖縄は日本・中国・台湾、更には東南アジアに至る環シナ海世界の要で琉球・沖縄をそのような国際関係において歴史的に考察することは、今日経済成長等で激変するアジアニーズの歴史の変貌の過程を理解する上で重要である。但しその歴史研究の基礎は資料の収集整理にあり、それには情報科学の成果の援用が有効である。

研究目的 環シナ海の地域間交流に関する実証的歴史研究を行うことを目的にするが、他の班との関係で、14～17世紀の寧波がある中国の江蘇・浙江と朝鮮半島についての資料調査を中心とするが、九州・山口の沖縄資料も調査収集する。

研究の特色 沖縄資料の開発と同時に環シナ海地域間交流の実態が把握される。

関連する研究の中での位置 沖縄を中心として見た環シナ海地域間交流史は初めての試みであるが、中国福建・台湾班や南海班とも関連して調査研究をすすめる。

### 研究計画・方法：

研究目的により中国江蘇・浙江と琉球や日本との地域間交流に関する文献・資料リストを作成、次に九州大学所蔵資料・鹿児島大学所蔵資料（特に玉里文庫）を調査し、必要なデータをパソコンに入力する。次に東京の国会図書館・東洋文庫・内閣文庫・尊経閣文庫等所蔵の明清漢籍を調査し、琉球・沖縄関連資料を収集し、マイクロフィルムに撮影する。収集されたデータはパソコンに入力し、検索その他の使用に供するが、新資料については2～3回の研究会を組織し、報告する。年度末には解説付き文献資料リストを作成する。研究者全員が九州内の調査のほか、数度の東京への出張旅行があり、旅費が多くなる。

研究代表者と分担者との関係 代表者は全体を統括し、調査収集の計画会議をもつ。分担者は九州各県・山口県の調査の他、東京の諸図書館で明清資料を分担調査する。

平成7年度

### 研究目的：

研究の背景 琉球・沖縄は日本・中国・台湾・朝鮮、更には東南アジアに至る環シナ海世界の要で、琉球・沖縄をそのような国際関係において歴史的に考察することは、今日経済成長等で激変するアジアニーズの歴史の変貌の過程を理解する上で重要である。但しその歴史研究の基礎は資料の収集整理にあり、それには情報科学の成果の援用が有用である。

研究目的 環シナ海の地域間交流に関する実証的歴史研究を行うことを目的にするが、他の班との関係で、14～17世紀の寧波がある中国の江蘇・浙江と朝鮮半島についての資料調査を中心とするが、九州・山口の沖縄資料も調査収集する。

研究の特色 沖縄資料の開発と同時に環シナ海地域間交流の実態が把握される。

関連する研究の中での位置 沖縄を中心として見た環シナ海地域間交流史は初めての試みであるが、中国福建・台湾班や南海班とも関連して調査研究をすすめる。

### 研究計画・方法：

研究目的により中国江蘇・浙江と琉球や日本の博多・長崎・鹿児島等との地域間交流に関する文献・資料リストを作成、次に九州大学所蔵資料・鹿児島大学所蔵資料（特に玉里文庫）を調査し、必要なデータをパソコンに入力する。本年度は特に九州大学所蔵の石本文書・元田文書、或いは北京大学図書館蔵善本叢書明清史料叢編所収の『国朝典匯』中の中琉関係史料のデータ化に努める。次に東京の国会図書館・東洋文庫・内閣文庫・尊経閣文庫等所蔵の明清漢籍を調査し、琉球・沖縄関連資料を収集し、マイクロフィルムに撮影する。収集されたデータはパソコンに入力し、検索その他の使用に供するが、新資料については2～3回の研究会を組織し、報告する。年度末には解説付き文献資料リストを作成する。研究者全員が九州内の調査のほか、数度の東京への出張旅行があり、旅費が多くなる。

研究代表者と分担者との関係 代表者は全体を統括し、調査収集の計画会議をもつ。分担者は九州各県・山口県の調査の他、東京の諸図書館で明清資料を分担調査する。

平成8年度

研究目的：

研究の背景 琉球・沖縄が環シナ海の中心地という地政学的位置から中国・朝鮮・日本・東南アジアと等距離の海洋国家という観点が重視されるとき、琉球・沖縄の対外関係史や外交関係史をより深く、本質的に捉えるためには、環東シナ海地域北部、即ち中国江蘇・浙江及び朝鮮と日本・九州との地域間交流の検討が必要になる。

研究の目的 地域間交流の具体像把握のために、環シナ海地域間交流に関する実証的歴史研究を行うことを目的とするが、他の班との関係上、14～18世紀の中国江蘇・浙江と朝鮮半島についての史料調査・収集整理を中心として、併せて九州・山口の琉球・沖縄史料についても調査収集を行う。

研究の特色 中国漢文資料の徹底的博捜により資料を網羅すると同時に、九州在住の研究者という好条件から九州資料を網羅する。これらは日本史研究者と東洋史研究者との合作で初めて実現するものである。また史料採集の過程において琉球をめぐる環シナ海地域間交流の具体像が得られる。

関連する研究の中での位置 環シナ海の九州・島嶼・南海の班及び同福建・台湾班とは資料情報の交換を行い、得られた網羅的資料情報を総括班に提供する。

研究計画・方法：前年度に引き続き、環東シナ海地域間交流に関する中国档案史料及び地誌史料、朝鮮史料、日本側九州各県史料を収集整理し、琉球・沖縄の環東シナ海地域間交流の位置づけを行う。地域間交流の具体像把握のために、長崎県立図書館の近世三百年を通じての書籍受け入れ史料たる「書籍元帳」、長崎唐通詞各家、朱舜水、長崎黄檗僧、薩南学派の桂庵元樹等の関係史料、及び平戸松浦氏文書、鹿児島玉里文庫、佐賀蓮池文庫、九州大学九州文化史研究所及び宮崎県立図書館所蔵の琉球・沖縄関係史料等のマイクロフィルム作成を行う。同時に、昨年度からデータ打ち込みに入っている「明実録」・「清実録」所収の中琉関係記事データベースの作成、及び九州大学九州文化史研究所所蔵の石本文庫の目録データベース作成を行う。本年度の調査による新史料については、本研究班主催の数度の研究会の中で報告検討を行う。本年度は鹿児島及び平戸で総括班との合同研究会もおこなう。研究代表者・分担者はそれぞれ数度の東京・京都への出張を行う。研究代表者は全体を統括し、調査収集の計画会議を主催する。分担者は九州各県・山口県の調査のほか、東京の諸図書館で明清史料を分担調査する。

平成9年度

## 研究目的

研究の背景 琉球・沖縄が、環シナ海を中心地という地政学的位置から中国・朝鮮・日本・東南アジアと等距離の海洋国家という観点が重視される時、琉球・沖縄の対外関係史や外交関係史をより深く本質的に捉えるためには、環東シナ海地域北部、即ち中国江蘇・浙江・及び朝鮮と日本・九州との地域間交流の検討が必要になる。

研究の目的 琉球沖縄の歴史史料と中国江蘇・浙江の漢文史料、朝鮮史料、九州の長崎・平戸・鹿児島所在の史料文書との関連を求め、これをデータベース化して、インターネットに載せる作業を進める。

研究の特色 中国漢文資料の徹底的博捜により資料を網羅すると同時に、九州在住の研究者という条件から九州資料を網羅する。これらは日本史研究者と東洋史研究者との合作で初めて実現するものである。また資料収集の過程において琉球をめぐる環シナ海地域間交流の具体像が得られる。

関連する研究の中での位置 従来作成したマイクロフィルム・データベースを全体総括班に集成するとともに、インターネットのホームページを作成して各研究班に情報提供する。

研究計画・方法：作成したデータベースをインターネットホームページに載せるため、専用のパソコンを設置し、インターネットホームページ作成を業者に依頼する。また、総括班が作成している沖縄史料集成のため、関連史料で未撮影部分の16mmマイクロフィルム作成を業者に依頼する。次に、作成したデータベースを印刷製本する。

また、環東シナ海地域間交流に関して、漢文史料については「琉球沖縄関連漢文史料集成」を印刷刊行する。その内容は(1)明実録中琉関係史料データベース(2)清実録中琉関係史料データベース(3)明清海防書・地理外紀・琉球史料データベースである。本年度は、新たに九州大学附属中央図書館蔵本草学関係漢籍和書目録データベース、九州大学九州文化史研究所蔵長沼文庫他海事史料目録データベースを作成する予定である。研究代表者・分担者はそれぞれ2～3回、総括班・分担研究班の研究会及びセミナーに参加するために、出張を行う。

## 7. 研究成果の概要

### 平成6年度

環東シナ海地域間交流の研究に関する方法的序説の作成準備として平成6年7月10・11日に当該研究の重要地点たる平戸市において樺山紘一東大教授(西洋史)・深沢克巳九大助教授(西洋史)・清水宏裕九大教授(イスラム史)・辛嶋昇大正教授(インド史)及び当班研究代表者川勝が16～18世紀の世界・海洋地域間交流に関するシンポジウムを開催した。地域間交流がヒト・モノ・金銀貨幣の動きとされるが、外国貿易と文化交流を中心とした海洋世界・港町相互間の様々な交流の事例が指摘された。次に当該重点領域研究の中心が歴史情報の機能的収集・利用を目的としたデータベースの作成にあるため、各研究分担者の所属研究機関・大学所蔵の関連文献目録・資料文献目録等を作成し、併せて福岡県立図書館の調査を行った。また、研究代表者・分担者は当該重点領域研究の総括班及び環シナ海地域間交流研究の他班の研究会に出席して、研究の情報交換を行い、当計画研究推進上の研究視角を確認した。以上の研究活動の結果、琉球・沖縄の対外関係が環シナ海地域間交流の一環にあり、それが中国と交流した主路たる華中福建・台湾との関係だけでなく、その北方にある華中江蘇・浙江さらには朝鮮半島・済州島とも交流があったことが重視されるべきであり、環シナ海全体の中で

の琉球・沖縄の位置が検討される必要のあることが確認された。なお、具体的な当研究班の課題としては、九州大学所蔵資料中石本家文書や元田家文書が薩摩藩の九州・日本本土と琉球・中国との地域間交流に関する重要史料群であり、今後これのデータベース化が企画される。中国江蘇・浙江及び朝鮮と琉球沖縄・九州との地域間交流に関する中国・朝鮮文献史料のデータベース化も鋭意推進される。こうした研究は次年度で展開されるが、その計画が具体化されたことも本年度の研究実績の重要な点である。

#### 平成7年度

本年度は環東シナ海地域間交流史中国江蘇・浙江・朝鮮班の研究期間の2年目として、研究・作業は具体的な段階へと進んだ。先ず、前年度からの調査に基づき、島原松平文庫の撮影・焼き付けを行った。このほか、九州大学九州文化史研究所所蔵の松本文庫・古賀文庫・長沼文庫の調査を行い、そのデータベース化についての検討を行った。九州各県所蔵の中琉関係著書・論文目録データベースについてはカード作成を行い、逐次データ打ち込み作業を推進中である。また、中国側漢文史料としての『明実録』・『清実録』の中琉関係記事のデータベース化は、該当記事のピックアップが終了し現在データの打ち込み作業が進行中である。上記の作業と並行して三度の研究会を行い、調査・研究の報告及び作業の方法論等を検討した。特に史料の画像データベース化がテーマとなった三回目の研究会は、次年度以降の作業の方法論的準備作業と位置付けられる。このほか、平成7年9月29・30日には、当班研究代表者川勝が九州華僑・華人研究会と合同で「環東・南海地域間交流と長崎」をテーマとしてシンポジウムを開催した。ここでは、斯波義信国際基督教大学教授（中国史）の基調講演と生田滋大東文化大学教授（東南アジア史）・原口泉鹿児島大学助教授（日本史）・姫野順一長崎大学教授（西洋史）等のコメントに基づき、中国・東南アジア・日本を結ぶ様々な交流の在り方が検討された。

#### 平成8年度

本年は3年目にあたり、具体的作業の最終段階に入った。本年度は、前年度に引き続き、史料のマイクロフィルム撮影及びデータベースの打ち込み作業を行った。マイクロフィルム撮影については、長崎県立図書館所蔵「近世環シナ海域交流関係史料」、鹿児島大学所蔵「玉里文庫」、鹿児島市立美術館所蔵中琉関係資料の撮影を行った。また、データベースとしては、「明実録中琉関係史料データベース」・「清実録中琉関係史料データベース」・「明清海防書地理外紀琉球史料データベース」の打ち込みを終了し、校正の段階に入った。「中琉関係著書論文目録データベース」・「九州大学九州文化史研究所所蔵石本文庫目録データベース」についてはなお打ち込みが続いており、完成は来年度になる予定である。また、国立故宮博物院刊行『宮中档各朝奏摺』中琉関係記事データベースについて本年度に完成させる予定であったが、史料の検出とサンプルの作成にのみ終わってしまい、これもまた完成は来年度にもちこされた。研究成果の中間報告については、研究班内の研究会を3回行った他、6月に鹿児島で「南九州と琉球・中国・朝鮮」と題して、9月に長崎・平戸で「環シナ海地域間交流と平戸・長崎」と題して、当研究班主催の総合研究会を行った。その際、鹿児島尚古集成館・黎明館・平戸市史編纂室などからも報告者を招き、研究交流を深めると同時に、史料・史跡などの閲覧見学に便宜をはかっていただいた。

#### 平成9年度

研究最終年度として、データベースの校正作業を行った。作成データベース及び撮影マイクロフィルムは以下のとおりである。なお、テキスト・データベースとしては、朝鮮史・日本史研究者が「海東

諸国記」(第2部 35.11 参照)、中国史研究者が「明実録・清実録中琉関係記事データベース」(35・10)を作成し、さらに日本史研究者が「長沼文庫目録データベース」・「石本家文書目録データベース」(37.\*\*\*)を作成した。

- データベース
- (1)明実録中琉関係記事データベース
  - (2)清実録中琉関係記事データベース
  - (3)海東諸国記テキストデータベース
  - (4)石本家文書目録データベース
  - (5)長沼文庫目録データベース
  - (6)松木文庫目録データベース
  - (7)古賀文庫目録データベース

- マイクロフィルム
- (1)鹿児島大学付属図書館所蔵玉里文庫
  - (2)長崎県立図書館所蔵近世環シナ海域交流関係史料

鹿児島県立図書館・鹿児島大学付属図書館所蔵琉球関係資料データベースの作成

1995年度と96年度、鹿児島県立図書館・鹿児島大学付属図書館所蔵において数度の調査を実施し、両館所蔵の琉球関係資料(史料、研究書、研究論文)の目録を作成した。これは、大谷敏夫・上園正人「沖縄・環東シナ海地域関係研究資料及び論文一覧」(『鹿大史学』44、1997年)として発表した。

## 8. 研究会等の開催

平成6年7月10・11日 シンポジウム「16～18世紀世界・海洋地域間交流」  
コメンテーター：樺山紘一東大教授・深沢克巳九大助教授・清水宏裕九大教授・  
辛嶋昇大正大教授・川勝賢亮九大教授

平成7年9月6日 第1回班研究会

報告：中村質(九大教授)「近世環シナ海域物流関係史料について - 日本市場を中心として - 」

平成7年10月28日 第2回班研究会

報告：川勝賢亮(九大教授)「環東シナ海地域間交流に関する漢籍史料について」

平成7年12月8日 第3回班研究会

報告：山元規靖(九大大型電算機センター助手)「歴史研究におけるインターネットの効用」

平成8年6月28～30日 総括班との合同研究会(於鹿児島大学)

28日 玉里文庫見学

29日 講演：芳即正(尚古集成館館長)「弘化期琉球外交事件と薩摩藩」

報告：徳永和喜(黎明館)「島津氏の対外交渉」

黒木國泰(宮崎女短大)「日向沿岸漂着唐船について」

松尾千歳(尚古集成館)「磯地区の琉球関係史料について」

30日 巡見：尚古集成館・磯庭園・花尾神社・一之宮神社・琉球館跡

平成8年9月27～29日 総括班との合同研究会(於平戸・長崎)

27日 巡見：長崎県立図書館・福建会館・唐人屋敷跡・崇福寺・興福寺

28日 講演：宮崎賢太郎(純心女短大教授)「現在の生月島カクレキリシタンの信仰形態」

報告：中村質(九州大)「平戸・長崎の唐人社会と貿易」

29日 報告：佐伯弘次（九州大）「十五世紀における肥前松浦地方と東アジア」  
萩原博文・前田秀人（平戸市史編纂室）「平戸氏関係の新出史料」  
川勝賢亮（九州大）「鄭成功と「国姓爺」の間 - 鎖国期日本人のアジア観 - 」  
巡見：松浦史料博物館・平戸観光資料館・オランダ商館跡

「研究業績の概要」のうち研究論文等「業績目録」ならびに「作成データベース解題」は省略。研究業績については13.03「研究論文等研究業績一覧」を参照のこと。また「作成データベース解題」は35.10、35.11、35.12、37.05を参照されたい。